

2020年・10月30日

旭川嵐山のゼフィルス卵

旭川のA先生からお誘いが。
「講義の前に嵐山でゼフ卵探ししませんか？MちゃんもOKです。」

嵐山のゼフの群飛はすごかった！と相棒のT氏も言っていたので
参加することにしました。

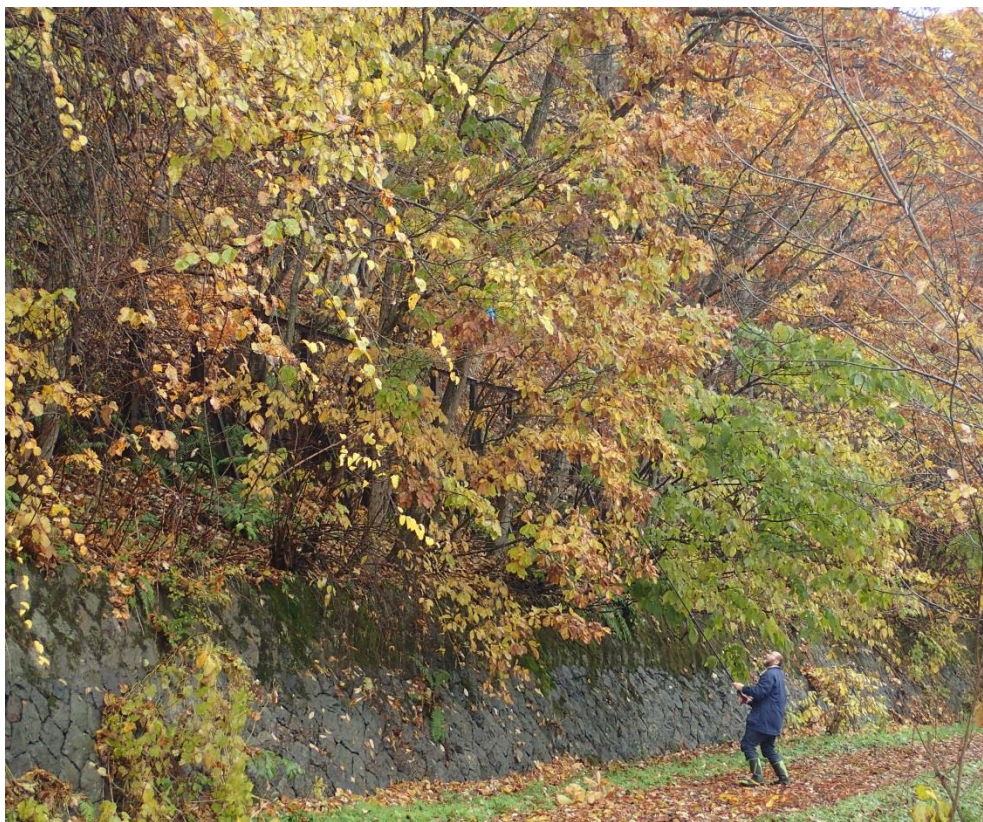
天気はまずまず、8時過ぎに家を出る。ところが大学の駐車場につくころには冷たい雨。こりゃあ無理かな。とりあえずMちゃんの家に行ってみますか。



早速2階の標本部屋に。こりゃあスゴイ。しばらく蝶談義。来年の目標などを語りあう。雨だけどちょっと行ってみませんか、とA先生。10分もあれば一仕事終わりますよ、とMちゃん。そう？行ってみますか。

まずはミズナラのゼフ卵

Mちゃん車、水たまりを撥ね飛ばしながら、自転車ロード沿いで停車。やおら高枝ばさみを出してミズナラの枝先をパッチンときりおとす。「はい、エゾ。」と枝を持ってくる。あっさり難関種(図鑑では二番目に難しい、難易度C)ゲット。



次はカシワのゼフ卵

エゾミ卵塊をいくつか採って、移動。今日のメイン嵐山に向かう。M車は林道をガシガシ進んでいく。相変らず追いかけるのが大変だ。

図鑑作成のためキタアカ卵をさがしまわったポイントに到着。あのときはゼフ、とりわけキタアカは不作の年で、有名産地をみんなで探すも連敗続き。最後の砦で、ここをMちゃんと攻めたことを思い出す。ここでもパチパチして、見てみるとベタベタついている。すごい密度だ。



ウラジロだな。

ウラジロは木の又に卵塊を作っている。キタアカやダイセン、アイノもどんどん採れる。たぶんハヤシも混じっているでしょう。こんなにたくさんついているとは思っていませんでした。

落とした枝にハズレはないので、責任を持ってお持ち帰りに。ほんとに10分もあればどっさりだ。室内でじっくりみてみよう。

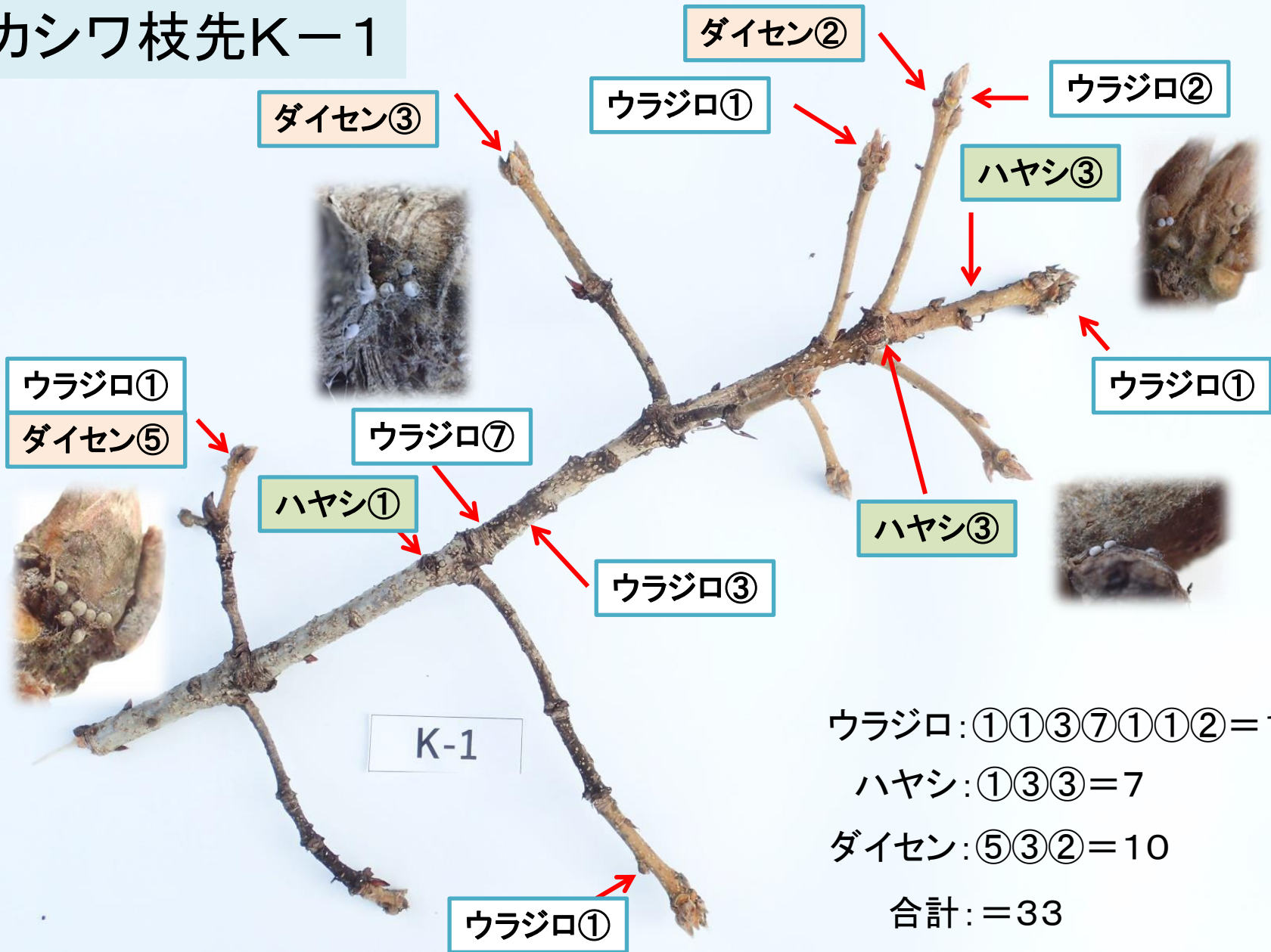


ということで、家に帰ってじっくり見てみました。

枝に番号をつけて、それぞれの枝にゼフ卵がどんな風に産み付けられているか記録してみることにしました。

とりあえずカシワの5つ、ミズナラの2つの状況です。

カシワ枝先K-1



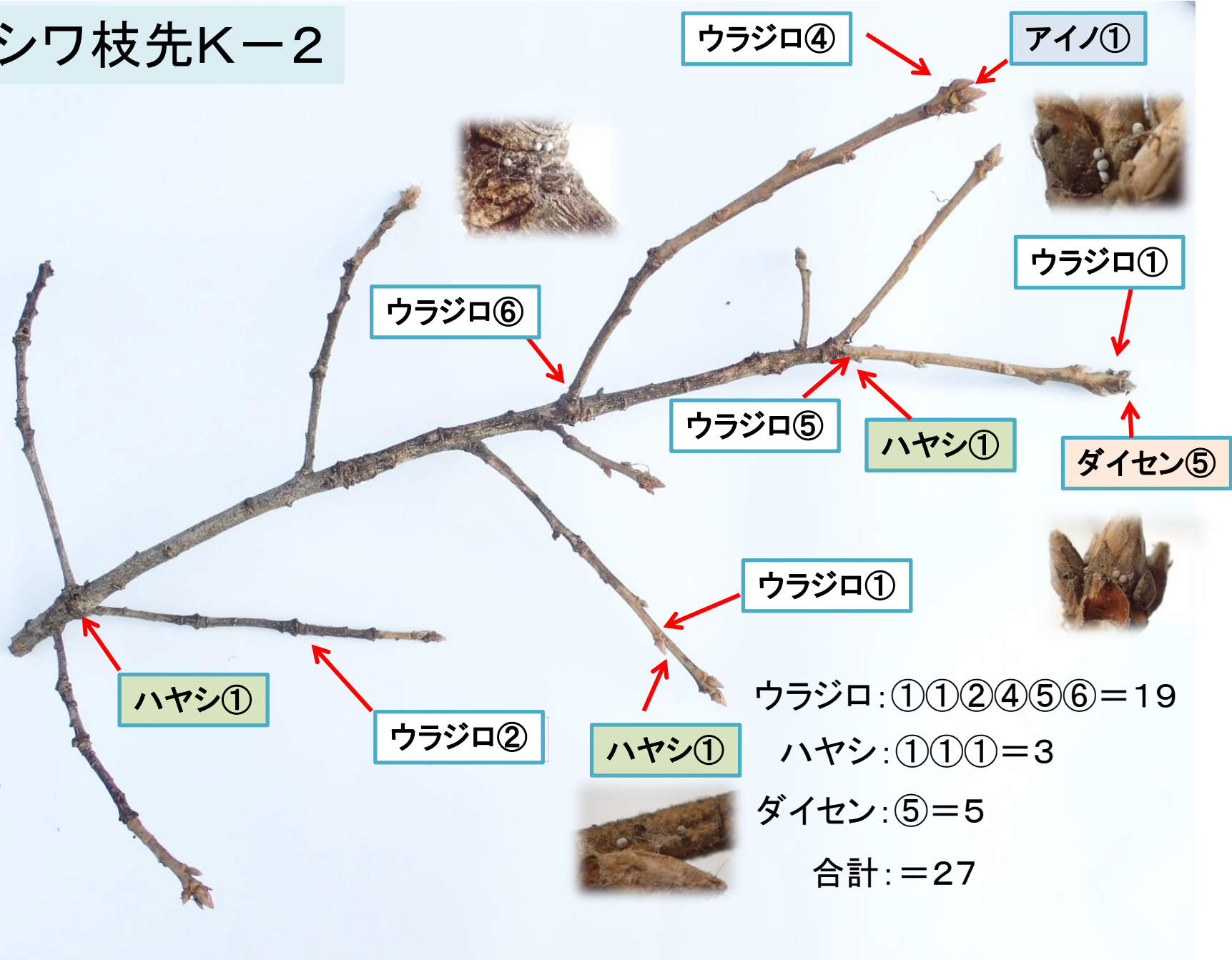
ウラジロ: ①①③⑦①①② = 16

ハヤシ: ①③③ = 7

ダイセン: ⑤③② = 10

合計: = 33

カシワ枝先K-2



ウラジロ④

アイノ①

ウラジロ⑥

ウラジロ①

ウラジロ⑤

ハヤシ①

ダイセン⑤

ウラジロ①

ハヤシ①

ウラジロ②

ハヤシ①

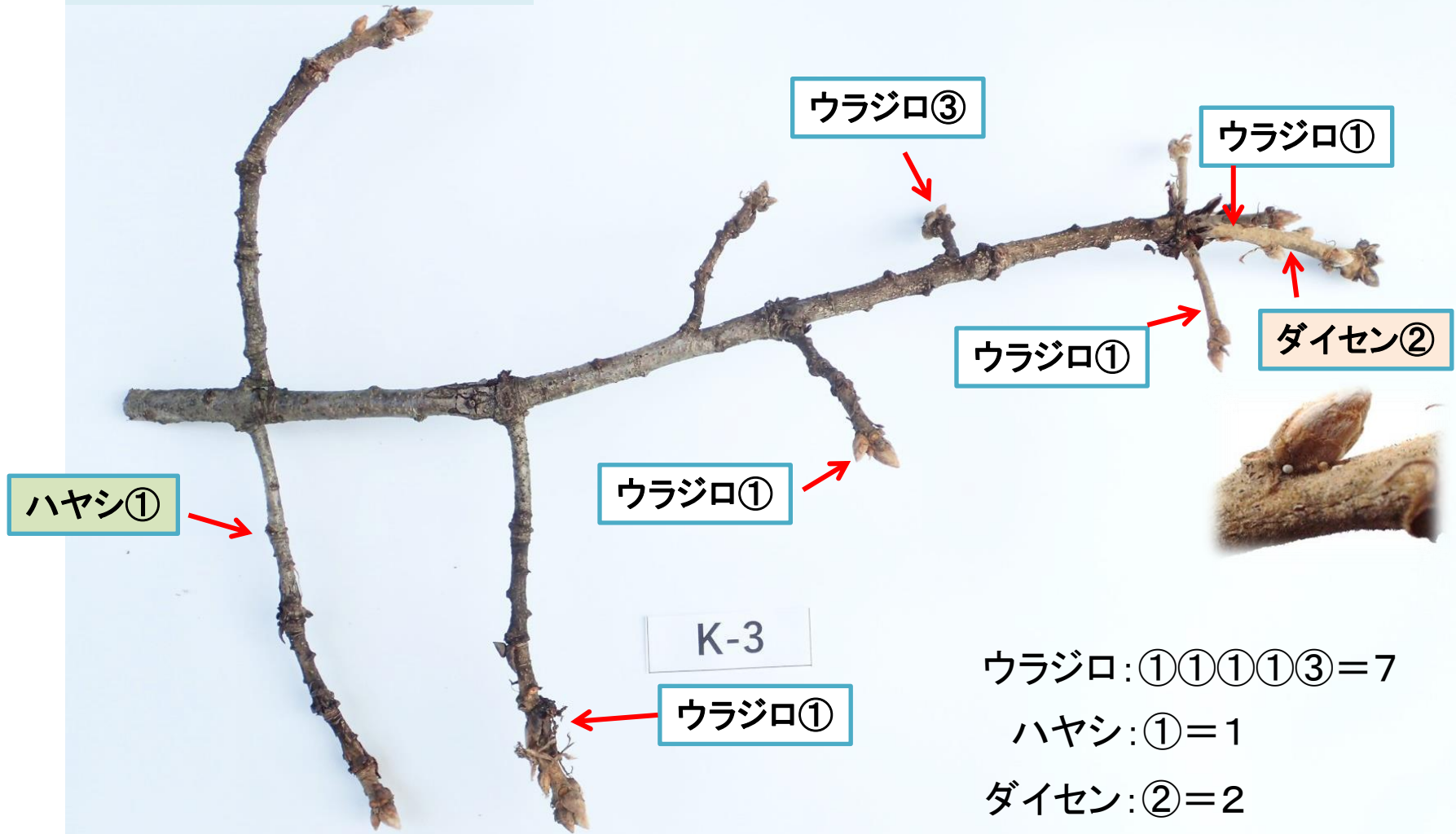
ウラジロ: ①①②④⑤⑥ = 19

ハヤシ: ①①① = 3

ダイセン: ⑤ = 5

合計: = 27

カシワ枝先K-3



ウラジロ: ①①①①③ = 7
ハヤシ: ① = 1
ダイセン: ② = 2
合計: = 10

カシワ枝先K-4

ウラジロ②

ハヤシ①

ウラジロ: ①①②②③ = 9

ハヤシ: ①① = 2

アイノ: ① = 1

合計: = 12

ウラジロ③



ウラジロ②

ウラジロ①

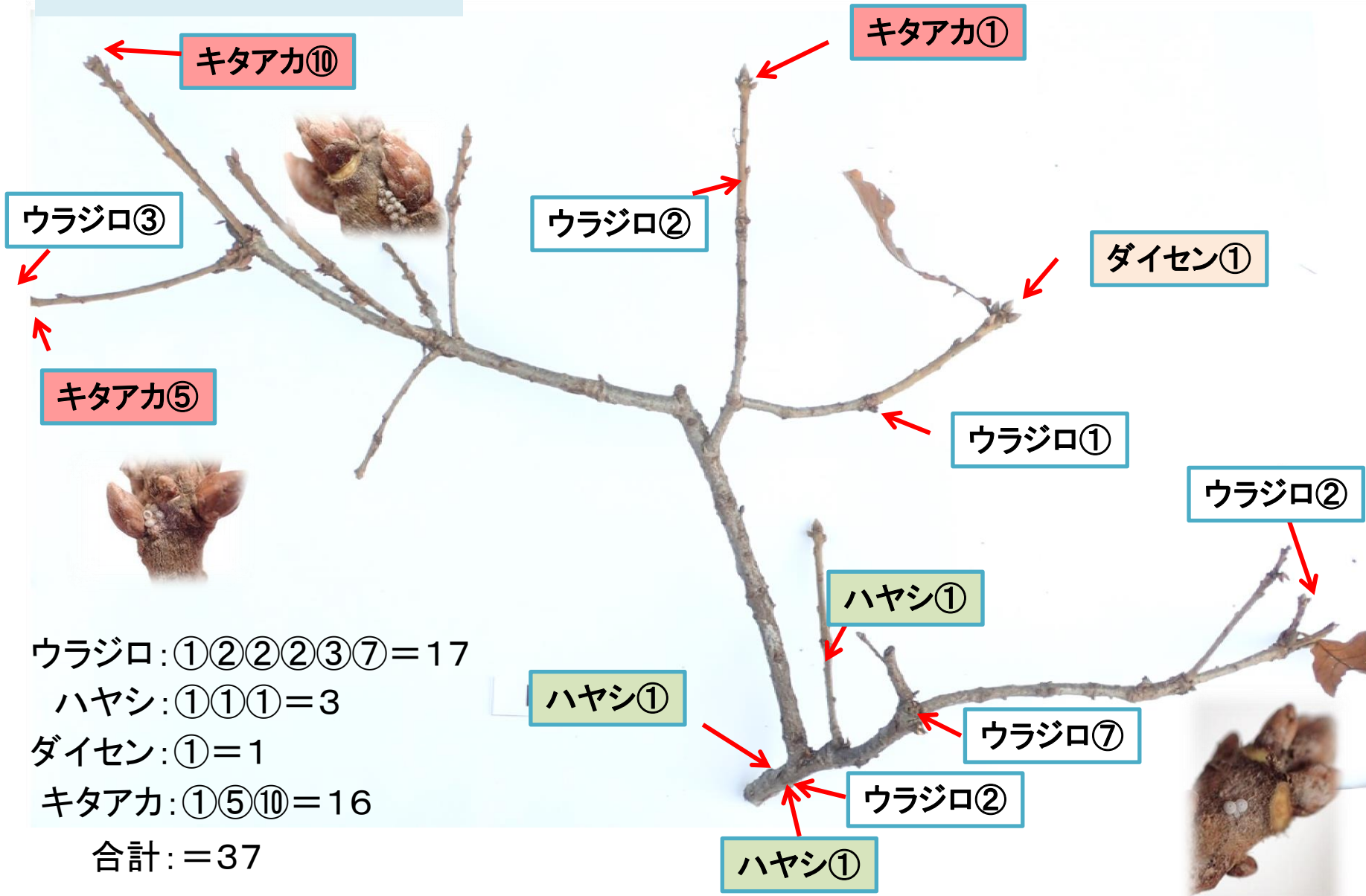
ウラジロ①

ハヤシ①

アイノ①



カシワ枝先K-5



ウラジロ: ①②②②③⑦ = 17

ハヤシ: ①①① = 3

ダイセン: ① = 1

キタアカ: ①⑤⑩ = 16

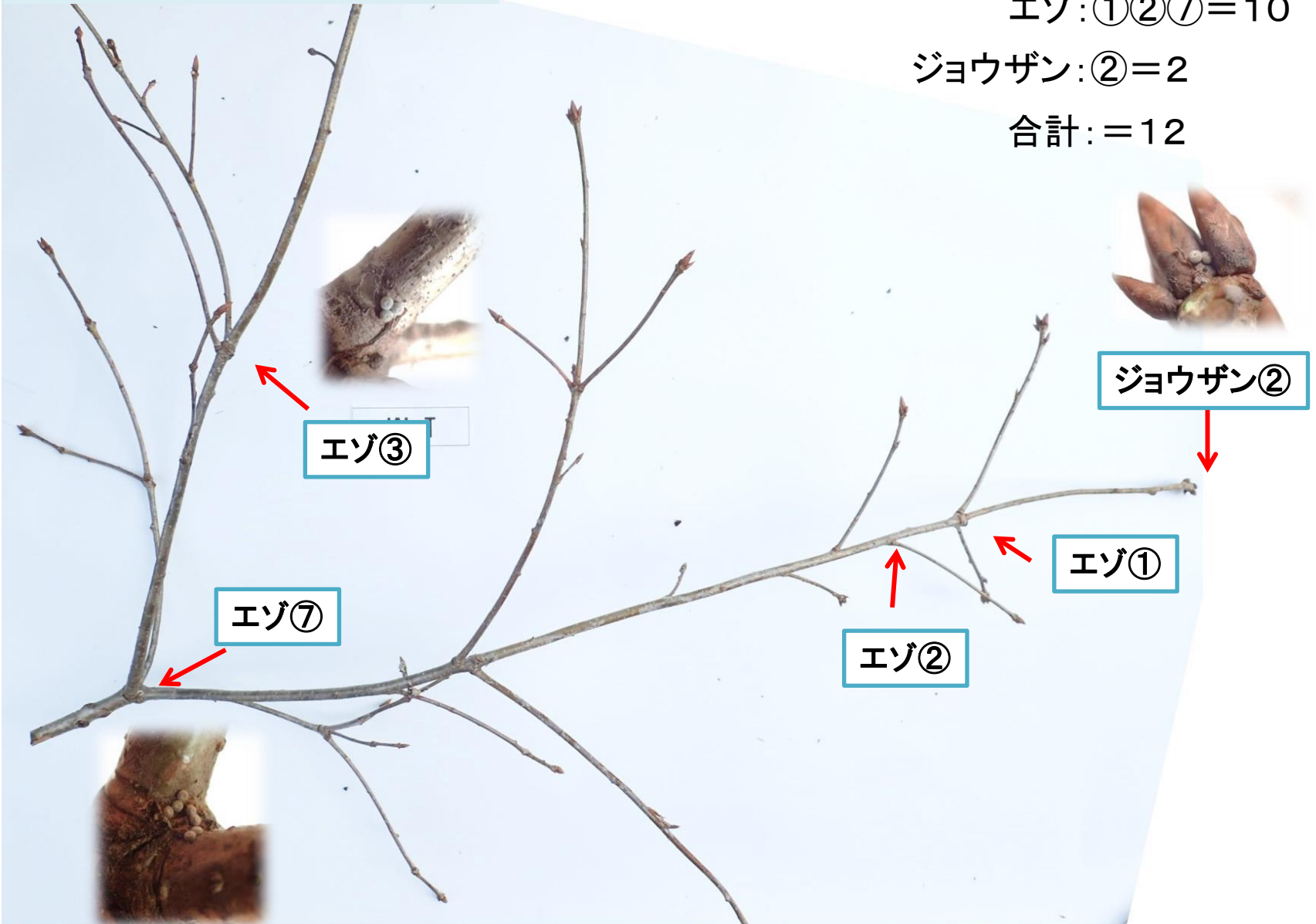
合計: = 37

ミズナラ枝先M-1

エゾ: ①②⑦ = 10

ジョウザン: ② = 2

合計: = 12

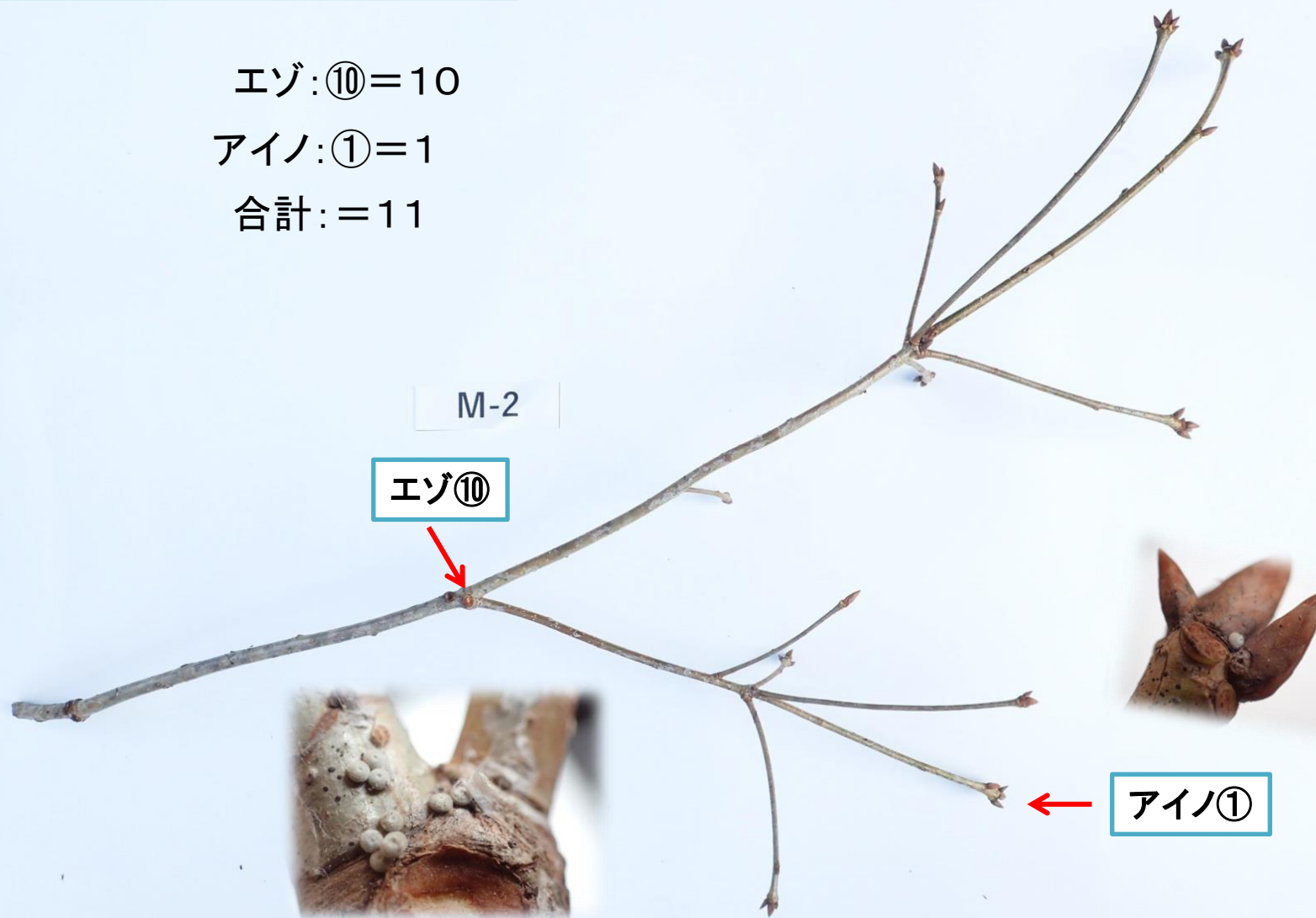


ミズナラ枝先M-2

エゾ:⑩=10

アイノ:①=1

合計:=11



卵の被害について

以上紹介したように、ゼフ卵は食樹の枝先いたるところに異常にも思われるように高密度に産付されていました。室内でゆっくり落ち着いて見ていると、何者かによって捕食された卵も目立ちました。左の写真はウラジロミドリの88個の卵塊ですがごらんのよう何者かによってほとんどが中身が食われています。よく見ると卵塊の奥に2個だけ食われていないのが見えます。まん中の写真は44個の卵塊のうち13個が食われています。右の写真はおなじみのヤドリバチの被害です。今回は左と中のような被害が目立ちました。枝先にたくさんついている卵を見つけ集中的に食い荒らしているように見えます。この犯人誰でしょうね。カメムシ類かな？



被害を受けていない2個



ということで、この他多量のゼフ卵を持ち帰ってしまいました。
A先生はM式年内バケツ飼育にチャレンジするようです。
私は庭のカシワにでも少し付けながら飼育してみるしかなさそうです。

やれやれ。

おわり

T, Nagamori